

授業科目名： 異文化理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大和 洋子 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標テーマ及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。</li> <li>・コミュニケーション手段として英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。</li> <li>・多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解する。</li> <li>・「やさしい日本語」の意味や意義について理解する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>異文化理解とは、お互いの置かれた立場を尊重し合い、そこにステレオ・タイプの観点や価値判断を持ち込むことなく、お互いの思考形態や行動様式などを客観的に受け入れること、さらにはお互いの「文化」を寛容的に受容することを様々な経験を通して学んでいくことである。</p> <p>本授業では、「ことばと文化」に焦点を当てて、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーション</p>			

ヨンの現状と課題、英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解するとともに、多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び多異文化交流の意義について体験的に理解する。

#### 授業計画

第1回：異文化を学ぶ意義と本授業の視座

第2回：ことばと文化－人々から生まれて人々をつなぐ（テキスト1）

第3回：コミュニケーションのしくみとはたらき（テキスト2）

第4回：ことばの含み－表の意味、裏の意味（テキスト3）

第5回：会話のなりたち－意図をどう伝えるか（テキスト4）

第6回：コミュニケーション・スタイル（テキスト5）

第7回：男ことばと女ことば（テキスト6）

第8回：文化とメタファー（テキスト7）

第9回：通訳と翻訳－異文化の橋渡し（テキスト8）

第10回：国際語としての英語－さまざまな背景をもつことば（テキスト9）

第11回：多様な文化的背景を持った人々との交流を図る

第12回：文化の多様性について学ぶ

第13回：英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について学ぶ

第14回：異文化交流の意義について学ぶ

第15回：まとめ

#### 定期試験

\*スクーリングでは第11回、12回、14回、及びテキストでは触れられていない現代日本における英語文化を超えた様々な異文化理解・交流について学ぶ。

#### 教科書

(1) 本名信行, 秋山高二, Bates Hoffer, 竹下裕子編著『異文化理解とコミュニケーション

〈1〉ことばと文化 第2版』、三修社、2005年

(2) 自作資料：スクーリングで配布する

#### 参考文献

・平成29年（2017）告示 学習指導要領中学校外国語新旧対象資料 啓林館

・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編 文部科学省

\*どちらもウェブ上からダウンロードできます。

・池田理知子・埴幸枝編著（2019）『グローバル社会における異文化コミュニケーション：身近な「異」から考える』三修社

・Erin Meyer（2015）“The Culture Map” Public Affairs

邦訳は、田岡恵[監訳] 樋口武志[訳]『異文化理解力』英治出版

・矢代京子他著、改訂版『異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる』三修社

- ・佐久間孝正（2015）『多国籍化する日本の学校：教育グローバル化の衝撃』勁草書房
- ・明治学院大学教養教育センター・社会学部編『多文化共生を学びあう—配慮と偏見のはざま  
で』かんよう出版

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。